

特集

# 『統合医療でがんに克つ』

創刊10周年に寄せて

## 『統合医療でがんに克つ』と共に歩んだ10年を回顧する

森吉臣

医療法人社団健若会 赤坂AAクリニック院長



はじめに

『統合医療でがんに克つ』の創刊満10周年記念は誠におめでとうございませう。当院も今年で開院14年目であり、がん治療を取り入れて約11年となり『統合医療でがんに克つ』とほぼ一緒に歩んできた思いで感無量です。

この10年間で、当院で扱うがん検査やがん治療のメニューも増

え、内容も充実し進化しています。過去10年の変遷について思いつくままに述べます。

### 高濃度ビタミンC点滴

内科的な抗老化医療から始まった当院ですが、がん治療と本格的に向き合うようになったのは、高濃度ビタミンC点滴を点滴療法研究会会長柳澤厚生先生にご指導い

ただいたのが始まり。もともとがん予防を志して開院した経緯があったので、がん治療は必然性がありました。当初と現在の違いは、Mylan社製の信頼できるビタミンCを点滴療法研究会から納入できていることです。もう1つは、1回の点滴量が当初は50gが主でしたが今は75gや100gも特に珍しくなくなりました。高濃度ビタミンC点滴の前にはオゾン療法、そして後にはα-リポ酸点滴など

を追加する頻度も増えています。

### 血液オゾン療法（血液クレンジング）

オゾン療法をがん治療に併用して行う理由については、本誌2017年5月号 VOL.107の「特集オゾン療法によるがん治療」に記載しましたが、それは表1の血液オゾン療法効果によるものです。当院のがん患者さん約9

表1 血液オゾン療法の効果

- ・体内の酸素化、末梢組織の酸素濃度増加
- ・酸素利用率が増加、ミトコンドリア活性化
- ・末梢血流の増加、循環改善
- ・内因性幹細胞の稼動化
- ・細胞の活性化（細胞内ATPの増産）
- ・免疫機能の向上
- ・抗酸化酵素増産による抗酸化力の向上
- ・酸化ショックタンパクの誘導

がん細胞が熱に弱いことは周知されています。その性質を利用して

**深部加温療法**

関節内に注射すると、主に整形外科領域の疾病に高い効果を示しますが、受診する患者さんの数も増えつつ変形性膝関節症の再生医療を扱うようになりました（表2）。

表2 整形オゾン療法

方法： オゾンガス皮下注、筋注、関節注  
 適応： 慢性頭痛、慢性背部痛、変形性膝関節症、足底筋膜炎、手根管症候群、顎関節症、坐骨神経痛、テニス肘、スポーツ外傷、骨折



て11年前から、がん治療に高濃度ビタミンC点滴と併用してINDIBA Cret System を利用してきました。これはがん治療効果を上げると同時に、がん患者さんの免疫機能向上や自律神経調整効果もあり手放せない機器です。3年前からマイクログ波がん治療機LANN-01を導入し深部加温療法をパワーアップしました。きわめて短時間で治療は終了しますので、体

力のない患者さんには特に向いています。さらに山本ビニター社のサーモトロンRF8を1年前に導入しました。これで、あらゆる患者さんのニーズにこたえられる加温機器が揃ったことになりました。この機器は保険診療が適用され低価格で温熱療法を提供できます。この機器も抗がん剤との併用効果が期待できますので、以前から当院で行っていたインスリンを使うIPT療法との相性が良く、低用量化学療法が実施でき高い効果を得ています（図1）。

**免疫療法**

約10年前から、免疫療法として活性自己リンパ球療法と自家がんワクチンを扱っていました。免疫療法は目まぐるしい発達を遂げ、現在では5種免疫複合療法、BAK療法、ABeVaxハイブリッド療法などの免疫強化療法を採用していま

す。

ABeVaxハイブリッド免疫療法は、長鎖ペプチドを使った多価樹状細胞ワクチン（ABeVax）と、増殖活性化させたT細胞の異なる2種類の免疫システムを組み合わせたハイブリッド療法となっています。

**免疫調整療法**

がん患者さんの免疫はがん細胞との闘いに負けた状態なので免疫調整療法が必要となります。がん細胞が産生するTGF-βは、がん細胞の悪性化、浸潤や転移を促



図1 山本ビニター社のサーモトロン RF8

進、免疫抑制などを引き起こします。TGF-βが高値の場合には低下させる免疫調整が必要となります。また細胞性免疫力が低下している場合は、それを制御するTh1細胞系のIL-2、IFN-γ、INF-βなどのサイトカインを強化する免疫調整が必要になります。

### 腸内フローラ調整

最近、動脈硬化、糖尿病、がんなどの原因として慢性炎症が最新の研究で明らかにされています。そして慢性炎症の原因として、腸

表3 腸内フローラ改善に関する最近の研究

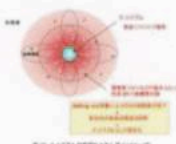
- ・腸内環境改善作用 善玉菌増加と悪玉菌の減少
- ・発がんリスクの低減作用  
乳がん、膵臓癌、大腸癌で報告  
大腸腺腫抑制、再発防止の報告
- ・免疫能調整作用・免疫機能亢進作用  
アトピーの低減作用 発症が半減  
花粉症軽減 40名 すべての症状が減った
- ・インフルエンザ感染予防（マクロファージなど活性化）
- ・血圧降下作用（アンジオテンシン変換酵素阻害物質）
- ・糖尿病の改善（インスリン抵抗の軽減）

表4 ファインバブル水素点滴

マイクロファインバブル水素  
1ml中に、2億7千万個



水分子の間に水素分子が入り込み  
「物理的な溶存する（化学的な溶解でない）  
3.5~4ppm程度は可能



2018/4/12

### 水素療法

内フローラの乱れが目目されています。腸内フローラの菌の中に、さらに、大腸がんの発症と直接関連する菌も同定されています。腸内フローラが直接がん化や免疫チエックポイントの感受性とも関連があることなども明らかにされ、これからますます腸内フローラ調整の重要性は増すと考えられます。当院では、現在、腸内フローラ検査、そして腸内細菌の多様性と機能を回復させる目的で腸内フローラ移植療法を行っています（表3）。

### 水素によるがん治療

水素に関しては、12年前から水素サプリメントを抗酸化目的で扱うようになり、同時に、水素と医療研究会を立ち上げて研究を始めました。ESRで水素の抗酸化力を測定した結果、ヒドロキシラジカルを特異的に消去することが明白となり、次第に水素サプリメントの虜になりました。水素点滴を何とかつくりたいと試行錯誤した結果、安価でできる水素吸着サンゴカルシウムで水素を発生させ、圧を加えながら点滴用生食水パックに浸透させる方法で、一応水素点滴が6年前に出来上がりしました。その後、マイクロファインバブル水素の技術が開発され、水素濃度が4~5ppmのきわめて高濃度水素点滴が可能になりました。しかも長時間安定的に溶け込んでいますので、体内で気化して塞栓になる危険性はゼロです。当院で早速この水素点滴を採用して日常の診療に使っています。がん患者さん、糖尿病、リウマチなどの疾患の他に、疲労回復、免疫強化、老化予防などの目的で利用しています（表4）。

人の細胞はアポトーシスによって古い細胞が死に新しい細胞と入れ替わりますが、そのアポトーシスをコントロールしているのがミトコンドリアです。一般にがん細胞のミトコンドリアは遺伝子に変異があり機能低下異常を来しています。水素治療の目的の第1は、がん細胞のミトコンドリア機能を活性化してアポトーシスを誘導することです。第2は、免疫を低下させる悪玉活性酸素を除去し免疫を強化します。第3に、強い抗酸化力により体内の慢性炎症を鎮めてがんの進行を抑制したり、浸潤や転移を防止します。抗がん剤の副作用を軽減したり新たな癌の発症を予防するなどの効果が期待できます。第4に、血液循環を改善し末端組織まで酸素を供給し、QOLを改善します。

### 高濃度水素酸素ガスの吸入

水素点滴の他に、高濃度水素酸素ガス（HHO）吸入があります。高濃度水素酸素ガス（HHOガス）の成分分析では、水素・67%、酸素・33%、窒素 0・6%で、二酸化炭素は検出されません。水素



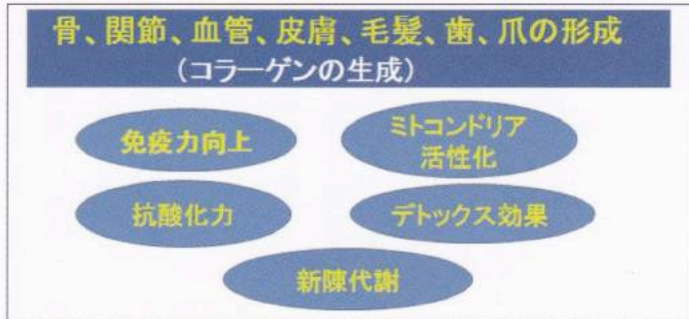
図2 医療用水素サプリメント

濃度は63・3万PPmと高濃度であり、40分間の吸入で水素水の516ℓ分に相当する水素を吸入できます。吸入開始5分から呼吸に水素ガスが検知されるようになります。慶應義塾大学の研究報告でも脳梗塞による心肺停止後蘇生率30%を70%まで上昇させる効果があり、この水素ガス吸入療法は、平成26年11月に先端医療Bに指定されました。水素吸入療法に限らず水素療法が注目されています。

### 水素サプリメント (Hi-Level 600)

水素は用量依存性に効果があり、多すぎても毒性はほとんど知られていません。そこで、医療用に使用する場合、水素注射におい

表5 ケイ素の効果



ても吸入においても十分な水素量が必要となり、点滴ではマイクロファイナバブル技術が、吸入ではHHOガスがこの条件を解決しました。水素サプリメントは、毎日手軽に水素を取り入れるのに便利です。医療用としては、質の良い水素サプリメントを多く摂取する必要があります。そこで、メーカーと開発したのが、Hi-Level 600で1カプセル600mgで通常の約2倍量があります。そして水素量単位当たりの単価を通常の約半額に設定し、医療用として提供を開始しました(図2)。

### ケイ素サプリメント

ケイ素は、日本人が不足するミネラルの第1位といって過言ではありません。OligoScan検査で体内ミネラル量を計測するたびに、患者さんには不足しているケイ素の体での役割についてお話ししています。表5のように、骨格や血管の重要な構成成分であり、抗酸化、免疫、代謝、デトックスから腸内フローラまで、関わる重要なミネラルです。サプリメントとして植物性と鉱物性がありますが、天然で吸収性も良く安全なみかんから抽出した植物性シリカであるライスシリカプレミアムを共同開発して、日本ケイ素医療臨床研究会から提供しています(表5)。

オゾン療法、水素療法、水素サプリメント、ケイ素サプリメントに興味を持たれた患者様、医療関係者は下記にお問い合わせください。

・一般社団法人 日本オゾン・水素療法協会

・医療団体 日本ケイ素医療臨床研究会

・東京都港区赤坂3-13-10 新

赤坂ビル 赤坂AAクリニック内

電話 03-3585-1211